

ありがとうございました

市民文芸

俳句（寒五句）

豊栄俳句会

音もなき寒夜は深き耳の底
中川 和世

目覚むれば寒波の庭に寒雀
山崎きよみ

○ 市橋英佐武さん（大月）は、
亡き母トキエさんが、長い間特
殊ベットを借りたお札にと、三
万円を福祉基金へ寄付。

○ 須藤銀さん（下大谷内）が、
貯金箱にためた硬貨七千六百円
を福祉基金へ寄付。



快晴の中で歓声
一市民スキー教室—

2月5日、南魚沼郡大和町の八海山麓スキ
ー場で、市民スキー教室が開かれました。
この日参加したのは、初めてスキーをはく
人からベテランまで42人。快晴の中で、豊栄
スキークラブの人たちなどから指導を受けま
した。
また、午後からは思い思いにスキーを滑ら
せ、初心者も楽しい一日を過ごしました。

囲碁
新春打ち初め大会
新春打ち初め大会
有段者の部一位は礎部満夫さん

日本棋院豊栄支部（高口又四郎
支部長）主催の新春打ち初め大会
が、一月二十二日、中央公民館で
開かれました。

恒例のこの大会には約四十人が
参加、練習の成果を競いました。
各クラス三位までの成績は次の
とおりです。

▽A組（有段者）
一位礎部満夫（早通南五） 二
位神成孝則（柳原） 三位小林弘
之助（内島見）
(早通南二)

▽B組（一、二級）
一位師橋守衛（樋ノ入） 二位
服部甚造（新潟市） 三位服部勝
須藤昌子（早通北五） 三位高野
圭介（嘉山三）
(早通北二)



学歴のいらぬ技術は負けていず
る。今日も無事終つて教師の一里塚
信仰の理論は問わぬ初詣で
吉間 港月
品田 浪乱
鹿島郁子選
田中 郁子
鈴木 宝竹
寒椿紅燃えず命断つ
等分に皿に分けやる寒莓
小熊 茂子
山崎きよみ

8

おひやましまます

アイスホッケーで国体出場

高橋保夫さん（東栄町一、二十五歳）



時に、ますますやる気が出きたというところです。新潟県チームは今まで一勝もしていなかつたので、是が非でも勝ちたかったんですね。

「二回戦はもう当たってください」という感じでした。悔いはありません」

「新潟のアイスリンクです。国体に出たのは、二十一歳から二歳位までの会社員、農業、自営業などさまざまです。時間は夜の九時から十時までですが、大会前は週三回、それ以外は週二回の練習なんです。練習が終わると頭の先からつま先まで汗びっしょりになります」

「今後の抱負は、『一般の部の仲間入りをして二年目なんです。今になって先輩から教えたことがようやくわかるようになったと思っています。それらを生かして恩返しをしたいですね。それと後輩の学生たちを強くすることも大きな目標です』

秋田県横手市出身の高橋さんは岡方中学校に勤めて二年目、スキーテニス、バスケットなどスポーツ。

「スケートをはいたのは大学一年の時が初めてで、防具をつけて

北海道釧路市で行われた第三十九回国民体育大会冬季大会のアイスホッケー成年男子の部に出場、新潟県チーム念願の一勝に貢献した高橋保夫さん。

「疲れませんでした。

「大会は二十七チームが参加し、一月二十八日から始まつたんですが、今の心境はホッとしたと同

「四年前までは一県一チームが出場できただんです。北信越、東海ブロック六県の中から四県出場なんです。国体出場は四年ぶりだつたんですね」

「アイスホッケーはいつから。

「スケートをはいたのは大学一年の時が初めてで、防具をつけて

短歌

豊栄短歌会

五十嵐清選

一年をはかる物差短か過ぎ

阿木 礼太

たそがれを寒行帰りの道急ぐ行者の笠に雪積りをり

馬場はるみ

渡りゆく雁の列指し問う児らにうたい聞かせり幼き日の歌

田辺 タカ

降り積る雪に音絶えきこゆるは夜半に目覚まし吾れが呼吸のみ

関川 マサ

見ゆるがに盲ひの吾れが詠む歌は他人の言葉をもらさじと聞く

細川 隆二

わが生の果は知らねど六十路なる過ぎ来し夢のうたた衰しも

山崎きよみ